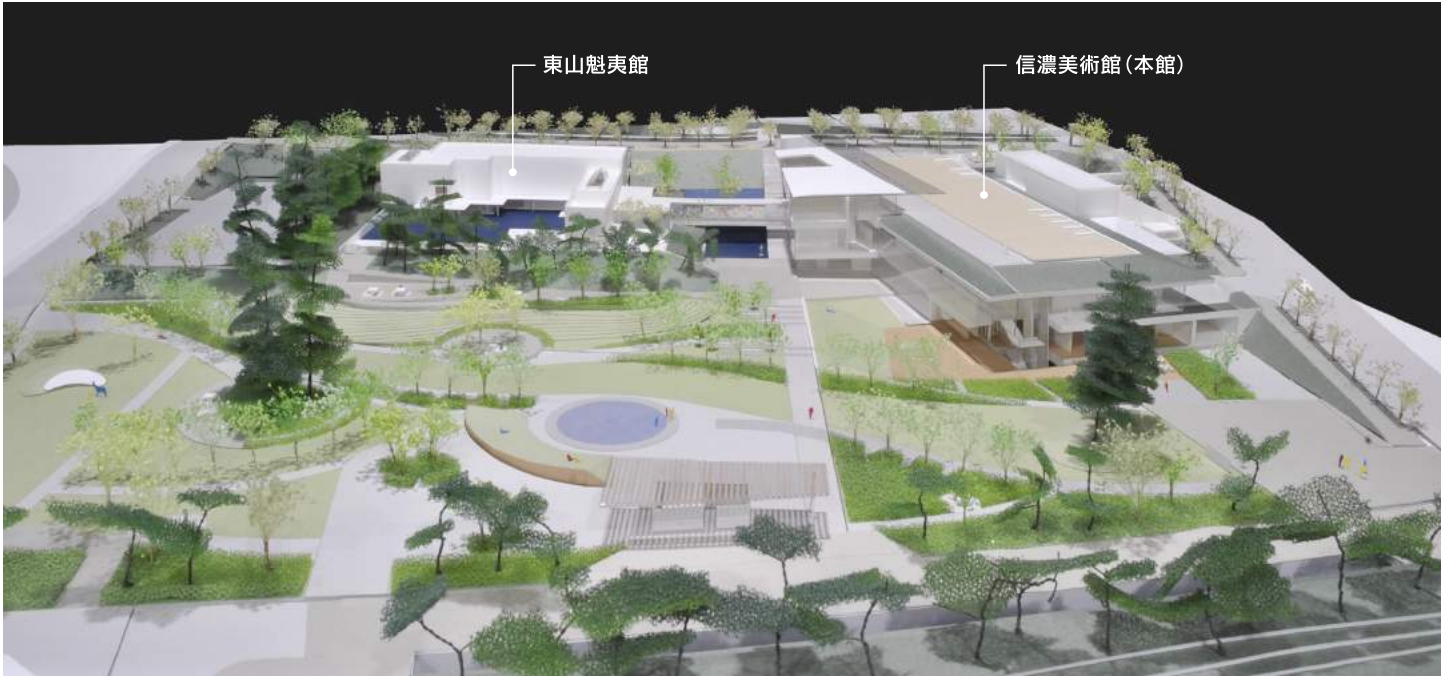
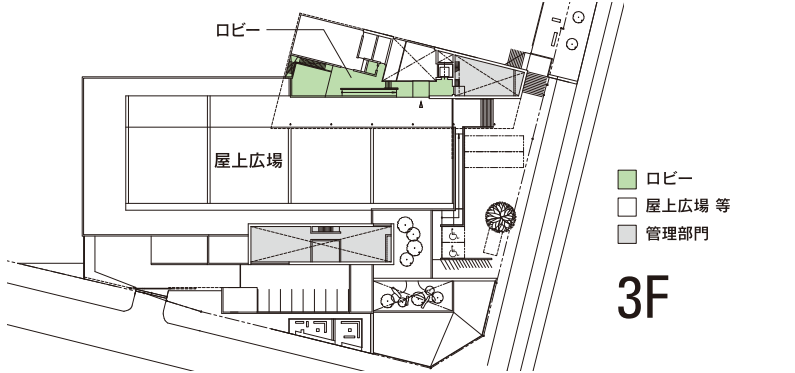




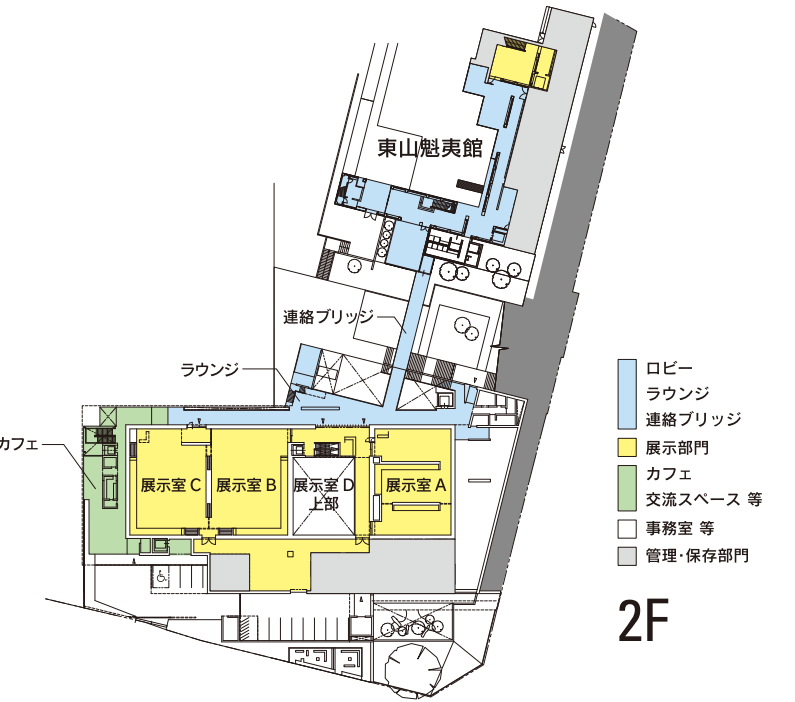
善光寺東公園側から見た敷地全体イメージ



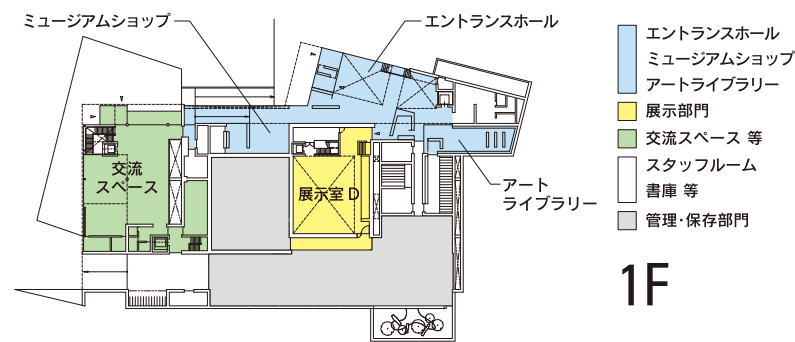
東側道路・屋上広場から善光寺を望む [イメージ]



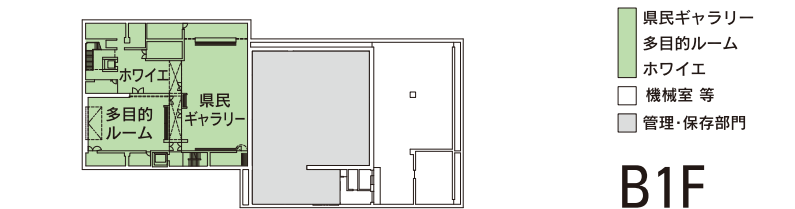
3F



2F



1F



B1F

※今後、実施設計を進めていく中でデザインや配置等の変更が生じることがあります

建築の構成

新しい信濃美術館（本館）は、時代の関心に応え、時代とともに歩む「進化・成長する美術館」として、国宝や重要文化財を含む様々な展示活動に対応できる「公開承認施設※」であることが求められる一方、県内の美術団体や県民の皆さまからは、様々な目的で自由に利用しながら、気軽に美術に親しめるスペースを望む声も多く寄せられました。性格の異なる2つの施設を一体的に成立させることが、今回の計画の最大の特長であり、それが建築計画の基本的な考え方の骨格になっています。

※重要文化財等の公開にふさわしい施設として文化庁長官が認定した施設。企画展における重要文化財等の公開手続きの簡素化や公開に伴う作品の応急修理費、輸送費などを文化庁に申請可能となり、美術館が重要文化財等の企画展を開催しやすくなります。

建築のコンセプト

ランドスケープ・ミュージアム

信州の山並みと一体化したランドスケープの構築を目指します。城山公園はもちろんのこと、隣接する善光寺東公園や神社の杜との連続性を意識しながら、ランドスケープと建築が融合した空間・環境を作り出します。

3つのレベル

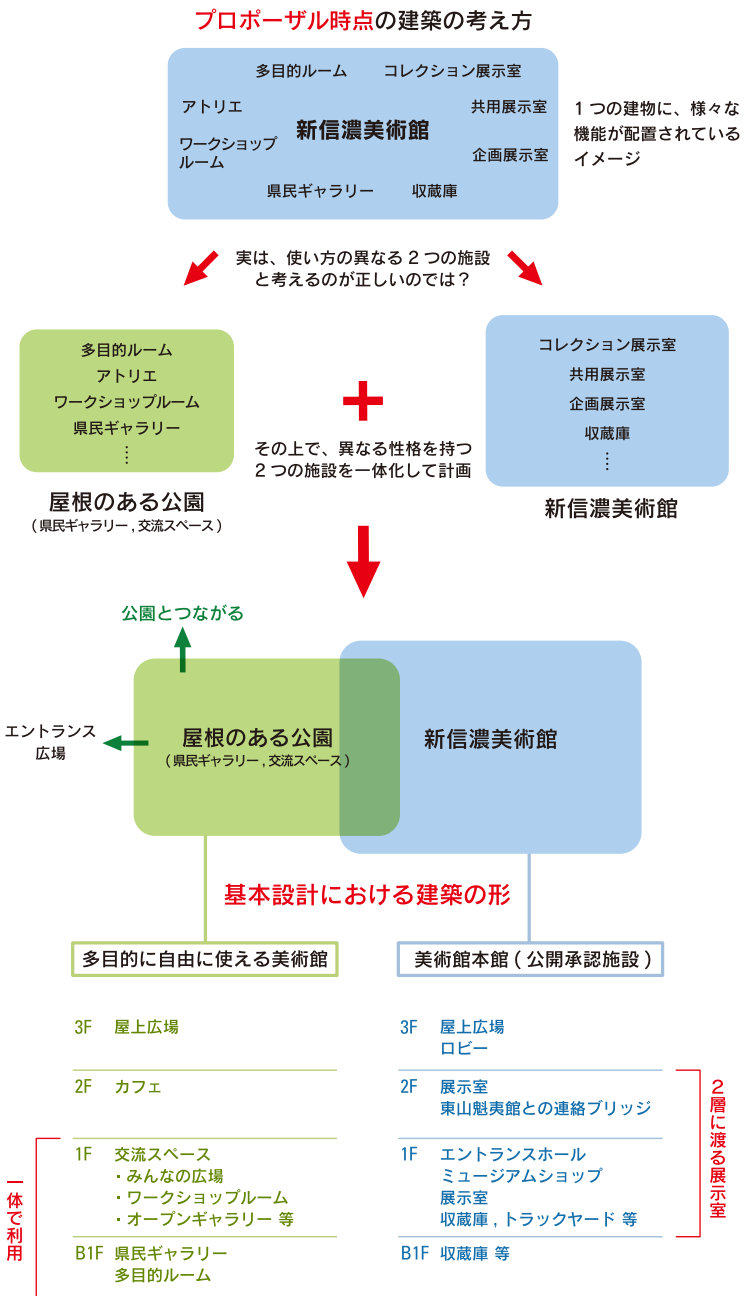
施設が建築として風景の中に突出することなく、かつ建物の階層を敷地の高低差と一体的に結びつけ、3つの地面の高さに対応したフロア（床レベル）とすることで、隣接する東山魁夷館との連携と、各レベル（地面の高さ）からのスムーズなアプローチが可能な計画とします。

ユニバーサルデザイン

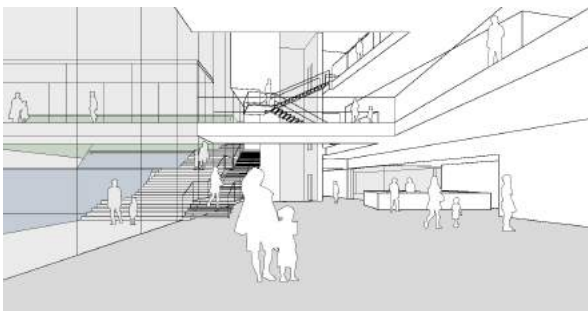
上記3つの床レベルの設定により、誰もが水平移動のみで道路から各階にアプローチできるという、この地形ならではの動線計画になっています。

環境計画

地域の気候や風土に適した施設計画を目指し、建築計画と設備計画が一体となって環境負荷の低減を図ります。



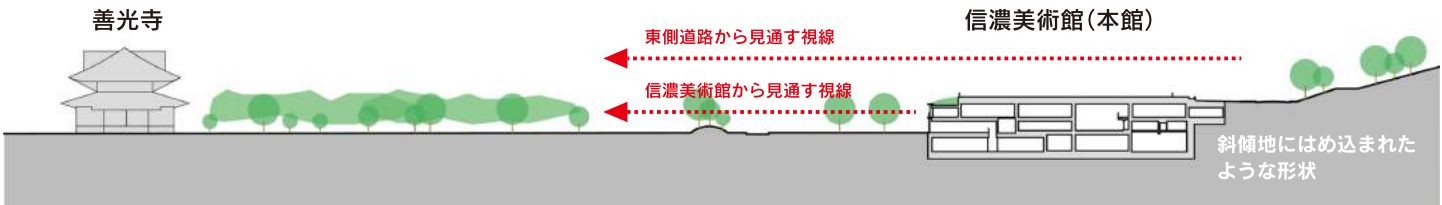
2層に渡る展示室 [イメージ]



吹抜けのある1Fエントランスホール [イメージ]



屋根のある公園（交流スペース）[イメージ]



善光寺から城山公園、信濃美術館にかけての断面イメージ